

「研究」でくらしに笑顔を
明るく未来を切り拓く 世界をリードする魅力ある大学へ

Vol.06
Dec, 2025

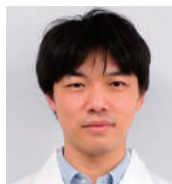
卓越研究グループ支援事業 令和7年度第2回公募結果

概要

本学の複数研究科の研究者で組成される、卓越かつ独創的な優れたアイデアで学際的研究分野を開拓し、さらに国際的な連携で研究を推進していくグループに対し、研究力の強化や次世代の研究者の育成を進め、新たな価値やイノベーションを生み出す研究拠点としての地位を築き、世界トップレベルの研究大学を実現するための活動を3年度にわたって支援する事業です。

令和7年度第2回公募では、**奥野 友介**教授、**木村 幸太郎**教授を代表とするグループが採択されました！

毛細血管漏出を標的とした研究開発拠点の形成



医学研究科 ウイルス学分野
教授 奥野 友介

卓越研究グループ「毛細血管漏出を標的とした研究開発拠点」は、毛細血管漏出(症候群)と、それをきたす原因として最も頻度が高い感染症の研究を支援する研究拠点という構想で発足しました。

毛細血管漏出(症候群)は、感染症をはじめとした様々な病態に付随して発生する、毛細血管から血漿成分等が漏出する病態です。代表的には肺において呼吸不全の原因となります(急性呼吸窮迫症候群)が、他臓器においても様々な病態をきたします。幅広い疾患に関与するにも関わらず、毛細血管漏出を直接の標的とした治療法はなく、大きなアンメットメディカルニーズが残されています。

名古屋市立大学は、最重症の毛細血管漏出の原因となる劇症型A群レンサ球菌感染症(通称:人喰いバクテリア感染症)や、感染等を契機に致死性の毛細血管漏出発作を起こす特発性全身性毛細血管漏出症候群(クラークソン病)の研究で世界をリードしています。また、附属東部医療センターは感染症指定医療機関の認定を有し、稀な感染症を多く経験しています。こういった優位性を活かしながら、本学に毛細血管漏出、あるいはそれに関連する感染症等の研究拠点を構築できればと考えています。研究拠点の構築を通じて、多くの若手研究者の先生に、研究計画策定から論文発表、外部資金獲得までの一貫した支援を行い、あるいは強いつながりを持つマヒドン大学(タイ)等への海外留学の機会を提供できればと考えています。

情報交換・技術支援のSNS(Microsoft Teamsチーム)や来年1月20日(火)に行いますキックオフ会議(会場 JPタワー名古屋)など、拠点に関する情報は<https://cls.yusukeokuno.com/>をご覧ください。



毛細血管漏出を標的とした研究開発拠点の形成

研究グループ代表者: 奥野友介(医学研究科・教授)
研究グループPI: 伊東直哉(医学研究科・教授) / 中川秀彦(薬学研究科・教授) / 鎌裕行(看護学研究科・教授) / 金子真代(看護学研究科・教授) / 長谷川忠男(医学研究科・教授) / 大石久史(医学研究科・教授) / 兼松孝好(医学研究科・教授) / 長谷川千尋(医学研究科・教授) / 鈴木書章(理学研究科・教授) / 濱野高行(医学研究科・教授) / 浅田隆太(医学研究科・特任教授)



【毛細血管漏出の基礎研究】
・基礎的研究(試験管内モデル)
・治療候補のスクリーニング研究
【毛細血管漏出をきたす疾患の研究】
・劇症型A群レンサ球菌感染症
・クラークソン病
・デング熱

【目標とする成果】
[1] 50編の論文(国際共著15編)を創出
[2] Top10%論文数12.5%以上
[3] 科研費10件を新規獲得
[4] マヒドン大学との国際交流協定
[5] 1件の医師主導治験

【若手人材の育成】
大学院入学~学位取得早期
・研究構想の構築(具体化・発展)
↓
・研究の指導
・実験・研究環境の提供
・論文の執筆・投稿指導
・最初の研究費獲得の指導
★科学的意義の大きい論文を発表
★初めての研究費を獲得
↓
・研究に取り組む人材の増加
・幹部人材の増加
・研究拠点~大学全体の研究活性化

自然と社会のモデル・データ融合科学研究拠点形成



理学研究科
教授 木村 幸太郎

このたび、私たちが提案した「自然と社会のモデル・データ融合科学研究拠点」が卓越研究グループとして採択されました。

現代社会では、自然科学・社会科学を問わず膨大なデータが取得されるようになり、それらを適切に分析して活かすことができない場面が増えています。この「膨大なデータは存在しているのに、その分析の仕方が分からない」という問題を乗り越えることを目指して、本拠点は医学・薬学・経済学・人間文化・芸術工学・看護学・理学・データサイエンスといった本学全研究科の研究者が参加し、基盤的な数理モデルから先端的な人工知能解析まで学内で相談しあえる環境を作り、学生や若手研究者も気軽に困りごとを持ち寄れる仕組みを整えていく予定です。この挑戦的な本拠点の提案が評価されたことを、大変光栄に感じております。

活動の一環として、採択直後の9月に第1回研究会を開催し、コアPI(研究の中心となる教員)が自身の研究の「これまで」と「これから」を紹介しました。12月24日には、第2回研究会として、生成AIの基盤技術である transformer の基礎解説や、前回発表していないコアPI関連研究者による講演、ポスター発表会を予定しています。今後も研究会やトレーニングを継続し、学内外の交流を促進してまいります。

本拠点が、蓄積されたデータと知見を結びつけ、新しい研究が自然に生まれる場となるよう、意欲的に活動を進めていきます。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後の研究会など、拠点に関する情報は、<https://www.ncu-model-data.jp/>をご覧ください。



「自然と社会のモデル・データ融合科学研究拠点」

名古屋市立大学, 2025~



課題
医学・自然科学・人文社会学での大規模データ収集が進む中、その活用が社会発展の鍵となるが、データ解析技術の活用は十分とはいえない。

活動計画
・古典的および先進的なデータ解析手法の活用などによる異分野融合研究の推進
・トレーニング機会の提供による若手研究者・大学院生の育成
・国内外の研究者を招いたシンポジウムを開催して、国際的な研究拠点構築

拠点形成が持たす成果
・医学・自然科学・人文社会学を含む学際的研究を推進
・データ分析技術の活用と新たな知識・原理の発見

研究組織
天体の運動 山田 梶清
脳神経の活動 三浦 木村
数理モデル・データサイエンス的手法 渡邊 小山
人の健康や経済活動 安部 江 堀 矢木
細胞やタンパク質の活動 中務
医学・薬学・経済学・人文社会学・芸術工学・看護学・理学・データサイエンス、本学すべての研究科の教員が参加する「新しいサイエンス」のための活動

卓越研究者招へい事業

令和7年10月より、なごや先端研究開発センターの特任教員として鍋倉 淳一先生にご着任いただきました。



鍋倉 淳一 特任教授
(前 生理学研究所 所長)

自然科学研究機構・生理学研究所に教授・研究所所長・理事として20年余り在籍し、今年10月に名古屋市立大学に着任しました。研修医時代に胎児行動学に接し脳生理の研究の世界に飛び込みました。生体2光子励起顕微鏡や電気生理学的手法などを用いて神経回路発達や障害脳からの回復過程を主なテーマとして、近年はグリア細胞による神経回路の再編成について研究を進めています。名古屋市には高いレベルの研究者や将来有望な若手研究者・学生が多く在籍していることを実感しています。これまでの研究者等の経験をもとに、皆様と一緒に大学の研究力向上に貢献したいと思えます。気軽にお声をかけてください。

- 卓越研究グループに係るエグゼクティブアドバイザー
- 国際共同研究の推進に係るエグゼクティブアドバイザー
- 本学研究者と岡崎地区3研究所（基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所）をはじめとする他の研究者との連携推進
- ご自身の研究発展に伴う本学の知名度向上

GRADcenter Spark Night! (卓越研究グループによる最先端研究プレゼンテーション)

概要

令和7年9月に開設したGRADcenter(名古屋市立大学大学院と大学院生支援のための組織)が中心となり、本学の大学院生を対象に、本学を代表する5つの卓越研究グループによる最先端の研究内容を紹介するイベント、GRADcenter Spark Night! を令和7年11月11日に開催しました。卓越研究グループの研究紹介、若手研究者によるキャリアセミナーの他、研究者と大学院生によるラウンドテーブル交流を行いました。

各卓越研究グループの研究紹介

各卓越研究グループの代表者によるグループの概要発表に続き、参画している大学院生によるプレゼンテーションを行いました。



澤本 和延 教授



森田 明理 教授



田口 歩 教授



奥野 友介 教授



木村 幸太郎 教授

若手研究者によるキャリアセミナー

愛知医科大学病院 周産期母子医療センターの神農英雄先生をお招きし、若手研究者のキャリアに関する講演をいただきました。



ラウンドテーブル交流

生協桜山食堂にて、分野を超えた研究者と大学院生の意見交換を行い、交流を深めました。



公募状況等

Check!!

対象者	事業内容	募集期間	掲載
教員	研究代表者に対する人件費支援事業 新たに雇用する特任助教の 人件費の7分の5を上限 に支援。	随時 (R8年度6月以降分)	学内イントラ>研究・産学官連携 >各種研究費
臨床研究を行う方	若手臨床研究奨励制度 臨床研究法上の臨床研究以外の臨床研究に対し、 15万円/件×60件 を支援。	2月~3月 (R8年度分)	市大病院HP ホーム>診療科・中央部門紹介>中央部門>臨床研究戦略部
大学院生、ポスドク	国際学会発表等の経済的支援 大学院生等が海外で開催される学会に参加し発表を行う場合や、研究指導を受ける場合等に、その渡航費用を支援。	2月 (R8年度第1次分)	大学HP>国際交流・留学>在学生の方へ>国際学会発表等支援事業
教員	研究支援員制度の拡充 出産、育児、介護等により研究時間の限られた研究者の研究活動を維持・促進することを目的として、研究補助や事務補助を行う 研究支援員 を配置。	12月~1月予定 (R8年度分)	本学HP ホーム>ダイバーシティ>ダイバーシティの推進にむけて>研究支援員制度

公募要項等をよくご確認ください。